

実績数値については、最終年の実績、5カ年の平均、5カ年のうち最上位と最下位の平均などを記入する。

## 持続性の高い農業生産方式の導入に関する実績

### 1 持続性の高い農業生産方式の導入に関する計画と実績

#### (1) 計画および実績の概要

- ・ 計画策定年 令和2年度
- ・ 目標年 令和6年度
- ・ 持続性の高い農業生産方式を導入した作物名 半促成トマト

#### (2) 農業経営の概況（令和6年度）

	水田	普通畑	樹園地	その他	合計
経営面積	30 a	16 a	13 a	a	59 a
労働力	農業従事者 男 1人（うち専従者1人） 女 1人（うち専従者1人）				

注 「経営面積」には、借入地面積及び受託地面積を含む。

#### (3) 作物別生産方式導入面積（単位 a）

	生産方式導入作物		その他作物	
	計画	実績 (令和6年度)	計画	実績 (令和6年度)
生産方式導入面積	16	14	—	—
作付け総面積	16	16	43	43

注1 「生産方式導入作物」の生産方式導入面積は、導入済みの農業生産方式に係る農作物の作付け面積を記入し、作付け済みの当該農作物と同じ種類の作物の作付け面積の合計を記入すること。

2 「その他作物」の生産方式導入面積は、導入済みの農業生産方式に係る農作物の作付け面積の合計を記入すること。

#### (4) 生産方式の内容（令和6年度）

生産方式の内容	資材使用の量・回数
有機質資材施用技術	
・ 有機質資材の施用 施用時期：10月上旬 施用方法：すき込み	0.3 t/10 a 0 kgN/10 a { 0.3 t/10 a 0 kgN/10 a }
・ 粗大有機物の施用（稲わら） 施用時期：10月上旬 施用方法：すき込み	1 t/10 a 0 kgN/10 a { 1 t/10 a 0 kgN/10 a }
・ ギニアグラスのすき込み 施用時期：9月下旬 施用方法：すき込み	2 t/10 a 4 kgN/10 a { 2 t/10 a 4 kgN/10 a }
・ 土壌診断：10月に実施	4 kgN/10 a

取組んだ技術について記載

計 画	<b>化学肥料低減技術</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>有機質肥料の施用（魚粕、骨リン、油粕）</li> <li>かん水同時施肥（施肥効率の向上）</li> <li>肥効調節型肥料の施用（ロングショウカル）</li> <li>局所施肥（施肥効率の向上）</li> </ul>	化学合成窒素成分量 8kg/10a 以下 (8kg/10a 以下)
	<b>化学農薬低減技術</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ギニアグラス栽培</li> </ul> ☆生物農薬の利用 <ul style="list-style-type: none"> <li>灰色かび病 : ボトキラー</li> <li>ハモグリバエ : マイネックス</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設開口部の防虫網被覆（アブラムシ類）</li> <li>マルチ栽培（雑草防除）</li> </ul> ☆病害虫抵抗性品種の利用 <ul style="list-style-type: none"> <li>敷きワラの利用（ハウス内湿度の抑制）</li> <li>ボルナドファンの導入（ハウス内湿度の抑制）</li> <li>ラノーテープの利用（コナジラミ）によるトップドレッシングの削減</li> <li>太陽熱による土壌消毒</li> <li>マルハナバチの利用（ホルモンの削減）</li> </ul> ☆は新規導入技術	成分使用回数 10 回以下 ( 12 回以下 )
実 績	<b>有機質資材施用技術</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>有機質資材の施用              施用時期：10 月上旬              施用方法：すき込み</li> <li>粗大有機物の施用（稲わら）              施用時期：10 月下旬              施用方法：敷きわらとして使用し、栽培終了後にすき込み</li> <li>ギニアグラスのすき込み              施用時期：9 月下旬              施用方法：すき込み</li> <li>土壌診断：10 月に実施</li> </ul>	0.3 t /10 a 0 kgN/10 a  1 t /10 a 0 kgN/10 a  2 t /10 a 4 kgN/10 a
	<b>化学肥料低減技術</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>かん水同時施肥（施肥効率の向上）</li> </ul>	化学合成窒素成分量 ××kg/10a
	<b>化学農薬低減技術</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ギニアグラス栽培</li> <li>生物農薬の利用              灰色かび病：ボトキラー              （ハモグリバエ：マイネックス）</li> <li>防虫網被覆（コナジラミ類）</li> <li>マルチ栽培（雑草防除）</li> <li>敷きワラの利用（ハウス内湿度の抑制）</li> <li>ボルナドファンの導入（ハウス内湿度の抑制）</li> <li>ラノーテープの利用（コナジラミ）によるトップドレッシングの削減</li> <li>太陽熱による土壌消毒</li> <li>マルハナバチの利用（ホルモンの削減）</li> </ul>	成分使用回数 ××回以下
	☆は新規導入技術	導入計画認定時と同様の記入方法でよい。  取組んだ実際の使用量等を記載

目標達成できなかった理由と今後の対応	有機質資材施用技術	計画と違う技術や目標の使用量等が達成できなかった理由及び今後の対応を記載
	化学肥料低減技術	〇〇
	化学農薬低減技術 (例) (目標は達成しているものの、技術導入が図れなかった理由を記載する) 病害虫抵抗性品種の利用については、効果が一定でないことから、導入できなかったが、生物農薬の利用、その他技術の適切な実施等により目標は達成した。	

注1 「有機質資材施用技術」には、たい肥等の有機質資材の施用時期、施用方法、C/N比等を記入すること。

2 「化学肥料低減技術」には、技術の具体的な内容、施用した肥料等を記入すること。

3 「化学農薬低減技術」には、技術の具体的な内容、基本的には10a当たりの収穫量を記載  
総収量の場合は、その旨を記載

(5) 生産の実績 (令和6年度)

		生産方式導入作物	その他の作物	合計
収量	計画	14 t		
	実績	12 t		
所得	計画	3,600千円	1,500千円	5,100千円
	実績	千円	千円	千円
目標達成できなかった理由と今後の対応	収量			
	所得			

注 「農業所得」は、販売額から当該生産に要した経費を差し引いた額を記入すること。

2 目標を達成するために導入した施設、機械その他の措置に関する事項

(1) たい肥等利用実績 (令和6年度)

たい肥等 有機質資材の種類	自給	購入	備考
粗大有機物 (稲わら) ギニアグラス		1 t / 10 a 2 t / 10 a	

注1 「たい肥等有機質資材の種類」には、有機質資材の一般的な名称 (例: 牛ふんおがくずたい肥) を記入すること。

2 「備考」には、有機質資材の入手先、主な原料等を記入すること。

(2) 機械・施設整備の実績

種類・能力	台数	実施年度

注 「種類・能力」には、機械・施設の一般的な名称（例：トラクター）及びその能力の程度（馬力、植付け条数等）を記入すること。

3 その他

--